

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成29年11月2日(2017.11.2)

【公開番号】特開2016-64012(P2016-64012A)

【公開日】平成28年4月28日(2016.4.28)

【年通号数】公開・登録公報2016-026

【出願番号】特願2014-194829(P2014-194829)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/10 R

【手続補正書】

【提出日】平成29年9月21日(2017.9.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

入力信号に応じた変形量で反射面の形状を変化させることができる形状可変鏡と、前記形状可変鏡からの反射光の光波面形状を計測する光波面計測手段と、前記入力信号の変化に対する前記反射光の光波面形状の変化量から前記入力信号を得る際に用いる換算係数を演算する換算係数演算手段と、

前記光波面計測手段で計測された光波面形状と、前記入力信号に基づく光波面形状との形状差を演算する形状差演算手段と、

前記演算された形状差に応じて前記換算係数を更新する換算係数更新手段と、を有することを特徴とする形状可変鏡システム。

【請求項2】

前記換算係数更新手段は、前記形状差としきい値との比較結果に基づき、前記換算係数を更新することを特徴とする請求項1に記載の形状可変鏡システム。

【請求項3】

前記換算係数更新手段による前記換算係数の更新に応じて前記しきい値を変更するしきい値の変更手段を有することを特徴とする請求項2に記載の形状可変鏡システム。

【請求項4】

前記換算係数更新手段は、前記形状可変鏡からの前記反射光が前記入力信号から算出された光波面形状を有するようになる前記形状可変鏡の動作点に対して所定の値の範囲で前記換算係数を更新することを特徴とする請求項1乃至3の何れか一項に記載の形状可変鏡システム。

【請求項5】

前記換算係数更新手段は前記換算係数を定数倍することを特徴とする請求項1乃至4の何れか一項に記載の形状可変鏡システム。

【請求項6】

前記反射光が反射された被検査物に対するデフォーカス量を検出するデフォーカス量検出手段と、

前記検出されたデフォーカス量とデフォーカス基準値とを比較結果に応じて、前記反射光に基づく前記被検査物の画像の撮影を許可する撮影許可手段と、を有することを特徴とする請求項1乃至5の何れか一項に記載の形状可変鏡システム。

【請求項 7】

前記検出されたデフォーカス量と前記入力信号から算出されたデフォーカス量とより残留デフォーカス量を演算する残留デフォーカス量演算手段と、

前記演算された残留デフォーカス量と残留デフォーカス基準値とを比較して前記残留デフォーカス基準値を更新する残留デフォーカス基準値更新手段と、を有することを特徴とする請求項6に記載の形状可変鏡システム。

【請求項 8】

前記被検査物が眼であり、前記画像が前記眼の眼底の画像であることを特徴とする請求項6又は7に記載の形状可変鏡システムを有する眼科装置。

【請求項 9】

入力信号に応じた変形量で形状可変鏡の反射面の形状を変化させる工程と、

前記形状可変鏡からの反射光の光波面形状を計測する光波面計測工程と、

前記入力信号の変化に対する前記反射光の光波面形状の変化量から前記入力信号を得る際に用いる換算係数を演算する換算係数演算工程と、

前記計測された光波面形状と前記入力信号から算出された光波面形状との形状差を演算する形状差演算工程と、

前記演算された形状差に応じて前記換算係数を更新する換算係数更新工程と、を有することを特徴とする形状可変鏡システムの制御方法。

【請求項 10】

請求項9に記載の形状可変鏡システムの制御方法の各工程をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。